

めぐみイエス・キリスト教会

2022年11月20日(日)第三主日礼拝
週報「通算第633号」



2022年標題聖句

第 I テモテへの手紙御6章17節～19節

《高慢にならず、頼りにならない富にではなく、むしろ、私たちにすべての物を豊かに与えて楽しませて下さる神に望みを置き、善を行ない、立派な行ないに富み、惜しみなく施し、喜んで分け与え、来たるべき世において立派な土台となるものを自分自身のために蓄え、まことのいのちを得るように命じなさい。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌343 「罪に満てる世界」 p. 546

【交読文】 No.25 詩篇第73篇 p. 899

【賛美Ⅱ】 新聖歌196「祈れ物事」 p. 290

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲No.1「ひとつのいのち」

【聖書朗読】 使徒の働き21章1節～6節 p. 278下段右側

【礼拝説教】 《第一回目の警告》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書「使徒の働き21章1節～6節」 p. 278下段

21:1 私たちは、彼らと別れて船出した。コスに直航し、翌日ロドスに着き、そこからパタラに渡った。

21:2 そこにはフェニキア行きの船があったので、それに乗って出発した。

21:3 やがてキプロスが見えてきたが、それを左にして通過し、シリアに向かって航海を続け、ツロに入港した。ここで船は積荷を降ろすことになっていた。

21:4 私たちは弟子たちを探して、そこに七日間滞在した。彼らは御霊に示されて、エルサレムには行かないようにとパウロに繰り返し言った。

21:5 滞在期間が終わると、私たちはそこを出て、また旅を続けた。彼らはみな、妻や子どもたちと一緒に町の外まで私たちを送りに来た。そして海岸でひざまずいて祈ってから、

21:6 互いに別れを告げた。私たちは船に乗り込み、彼らは自分の家に帰って行った。

●ポイント1.「コス」「ロドス」「パタラ」「ツロ」とは？

■**コス** 小アジア南西端に近いエーゲ海の島。島は肥沃な土壌から、ぶどう酒、麦を産し、また絹や紫染料の生産によって栄えた。またこの地に生れたヒッポクラテスは医学校を開いて「医学の父」と呼ばれた。この島には多くのユダヤ人が住んでいた。紀元53年に自由都市に昇格する。

■**ロドス** 「ばらの島」という意味。エーゲ海の最も東寄りにあるドデカネス群島最大の島。首都も同名ロドスで、古代地中海世界では、アレキサンドリヤとカルタゴに並ぶ大通商都市であった。新約聖書の時代、ロドスはなお自由都市として存続し、港、城壁、市場等を持った町であった。

■**パタラ** 小アジア南西部にあるルキヤ州の重要な港町の一つ。

■**ツロ** 「岩」という意味。最も有名なフェニキヤの港町。聖書には「城壁のある町」として言及されている。ユダヤ古代歴史家ヨセフォスは、ツロが出来たのは、紀元前1217年と言う。主イエスがガリラヤからフェニキヤ沿岸に退かれた時、この地方の人々も主イエスの教えを聞きにやってきた。

●ポイント2.「使徒パウロに示されたこと」とは？

※使徒の働き20章22節～24節「決別の説教から」 (新約p.277上段)

●ポイント3.「神様の御心と人の思い」の違いとは？

※箴言16章1節および19章21節「人の計画と主の計画」(旧約p.989上段)

16:1 人は心に計画を持つ。しかし、舌への答えは【主】から来る。

19:21 人の心には多くの思いがある。しかし、【主】の計画こそが実現する。

◎先週の礼拝メッセージ【与える方が幸い】

《ミレトスからパウロは、エペソ教会の長老たちを呼び寄せました。パウロが最初にエペソに足を踏み入れたのは、紀元52年の頃のことです。この時、パウロは短期間の滞在でしたが、主の恵みによって救われた人々が、今はエペソ教会の長老になっていたのです。

「ご覧なさい。私は今、御霊に縛られてエルサレムに行きます。聖霊が言われるのは、鎖と苦しみが私を待っているということです。私の顔を、あなたがたはだれも二度と見ることはないでしょう。」

この言葉を聞いた時、エペソから来た人々は、みな涙を流しました。「今この日に宣言します。私は誰の血に対しても責任がありません。」

この言葉はエゼキエル書に書かれた預言がもとになっています。「人の子よ。私が悪い者に『あなたは必ず死ぬ』と言う時、もしあなたが彼に悪の道から離れて生きる様に警告しないなら、その悪い者は自分の不義のゆえに死ぬ。私は彼の血の責任をあなたに問う。」と。「あなたがたは自分自身と群れの全体に気を配りなさい。神がご自分の血をもって買い取られた神の教会を牧させるために、聖霊はあなたがたを監督にお立てになったのです。私は、人の金銀や衣服を貪ったことはありません。あなたがた自身が知っているとおおり、私の両手は、自分の必要の為にも、共にいる人たちの為にも働いてきました。」

エペソにおいて、同労者かつ同業者でもあったアキラとプリスキラと共に、天幕作りを行ないながら、パウロはすべての必要を満たしました。そして、エルサレム教会に届ける献金の中にも、彼自身が働いて得た物もあると信じます。それだからこそ言えるのです。『受けるよりも与えるほうが幸いである』と。与えることが先決です。そうすれば与えられます。祝福されるのです。私たちは互いに励まし合うことが出来る存在です。そして神様もそれを喜んでおられます。》

お知らせ

※次回の第四主日礼拝は、11月27日(日)です。通常通り、教会において行ないます。2023年1月1日(日)の礼拝はお休みいたします。